

第4章 接続期のカリキュラム例

この章では、接続期全体の計画や5歳児後半及び小学校1年生1学期のカリキュラムの例を示していきます。

接続期のカリキュラムは、子どもや各園、各学校の実態、地域の様子を踏まえて、作成することで初めて実用性のあるものになります。ここに示した例を参考に、各幼稚園・保育所・認定こども園及び小学校で、それぞれの実情に合ったカリキュラムが作成されることを期待します。

1 接続期における全体計画例（資料1）

ここでは、5歳児後半から小学校1年生1学期を一体的に示した全体計画例を作成しました。このような全体計画を作成するには、幼稚園・保育所・認定こども園と小学校との協働が必須です。それによって、学校段階間での連続性・一貫性をより一層意識した教育・保育の実現が可能になります。

(1) 接続期に目指す子ども像

幼児期の「育ち」と小学校との「学び」を接続するには、地域の幼稚園・保育所・認定こども園と小学校で「接続期に目指す子ども像」を共有する過程が欠かせません。

全体計画例では、「接続期に目指す子ども像」を「育てたい資質・能力の三つの柱（三つの自立）」の視点から設定しました。

例示した接続期に目指す子ども像は、「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続に関する方針（静岡県策定）」の中で示された「接続期に目指す子ども像」から県内の保育者と小学校の教師が課題として意識していることを踏まえて設定しました。

(例) 接続期に目指す子ども像

【知識・技能の基礎（主に生活上の自立）】

集団生活を送る上で必要な生活上のマナーやきまり、技能を身に付け、自分のことは自分でできるようにする。

【思考力・判断力・表現力等の基礎（主に学びの自立）】

よりよい活動になるように、対象となる「人・物・こと」に主体的に関わり、自ら判断して、行動する。

【学びに向う力・人間性等（主に精神的な自立）】

できたこと、分かったこと、役にたったことなどを実感し、自分の成長を認め、次の活動や体験への意欲をもつ。

(2) 4つのステージとねらい

この全体計画例では、接続期を4つのステージに分け、ステージ毎のねらいを設定することで、子どもの発達段階を踏まえ、連続的で一貫性のある保育や教育を展開できるようにしました。

【第1ステージ（10月～12月）のねらい】

- ・グループやクラスの友達の中で、自己を十分に発揮する。
- ・友達と一緒に考えたり、アイデアを出したり、相談したり、葛藤したりしながら、共通の目的に向かって遊びを進める楽しさを味わう。

【第2ステージ（1月～3月）のねらい】

- ・自分の成長を自覚し、自信をもつとともに、1年生になることに期待をもつ。
- ・見通しをもって(友達と一緒に)生活や遊びを進め、園生活を楽しむ。
- ・これまでお世話になった人たちに感謝の気持ちをもつ。

【第3ステージ（4月）のねらい】

- ・健康や安全に気を付け、規則正しく生活したり、仲よく活動したりすることを通して、安心して楽しく学校生活をスタートする。
- ・学校の施設の様子や一日の生活サイクル、先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かる。

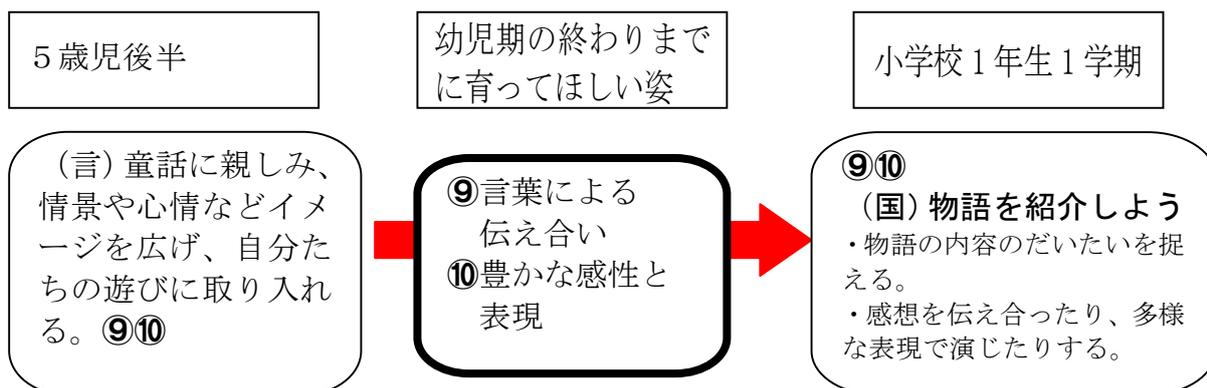
【第4ステージ（5月～7月）のねらい】

- ・自分たちの学校生活は、先生や友達だけでなく、家族や地域の人々、地域の様々な場所と関わっていることが分かる。
- ・集団や社会の一員として、自分の役割や行動の仕方について考えたり、友達と意見を伝え合ったり、同じ目標に向かって協同したりすることによって、生活をよりよく豊かにする。

(3) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育・保育内容

この全体計画例では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にして、幼児期の育ちが小学校の学びにどのようなつながるのか見通すために、5歳児後半の内容の後に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目の番号を示し、1年生1学期では、内容の始めにその番号を示しました。

(例)



(4) 育成を目指す資質・能力と教育・保育内容 (P31 資料 1)

この全体計画例では、保育や教育の内容は、「知識・技能の基礎（主に生活上の自立）」「思考力・判断力・表現力等の基礎（主に学びの自立）」「学びに向かう力・人間性等（主に精神的な自立）」の三つの観点に分けて示しています。

ただし、幼児期の教育において、この三つの資質・能力は個別に取り出されて育むものではなく、遊びや生活を通して総合的に育むものです。例えば、前ページで例示した「童話に親しみ、情景や心情などイメージを広げ、自分たちの遊びに取り入れる」という内容は、【思考力・判断力・表現力等の基礎】の欄に示していますが、他の2つの資質・能力の育成にも関わっていることを考慮しておく必要があります。

保育内容の前の（ ）は領域を示しています。（言）となっていれば、言葉の領域を表します。幼児期の教育における保育内容は、幼稚園教育要領、保育所保育指針等に、5領域（健康、人間関係、環境、言葉、表現）で示されています。この5領域は、子どもの発達の側面から5つにまとめたものですが、子どもの発達は様々な側面が絡み合って相互に影響を与え合いながら遂げられていくので、言葉の領域として示した保育内容であっても、他の領域の内容の発達にも関わってくることに考慮しましょう。

なお、その内容が示されている位置はその保育を計画する時期を示していますが、およその目安と捉えてください。

(例)

10 月	11 月	12 月	1 月	
------	------	------	-----	--

思考力・判断力・表現力等の基礎
(主に学びの自立)

この保育内容の領域は、「表現」です。11月以降の保育として計画されています。

(表) 思ったことや経験したことを言葉や体などで表現することを楽しむ。⑨⑩

(言) 童話に親しみ、情景や心情などイメージを広げ、自分たちの遊びに取り入れる。⑨⑩

この保育内容の領域は、言語です。12月以降の保育として計画されています。

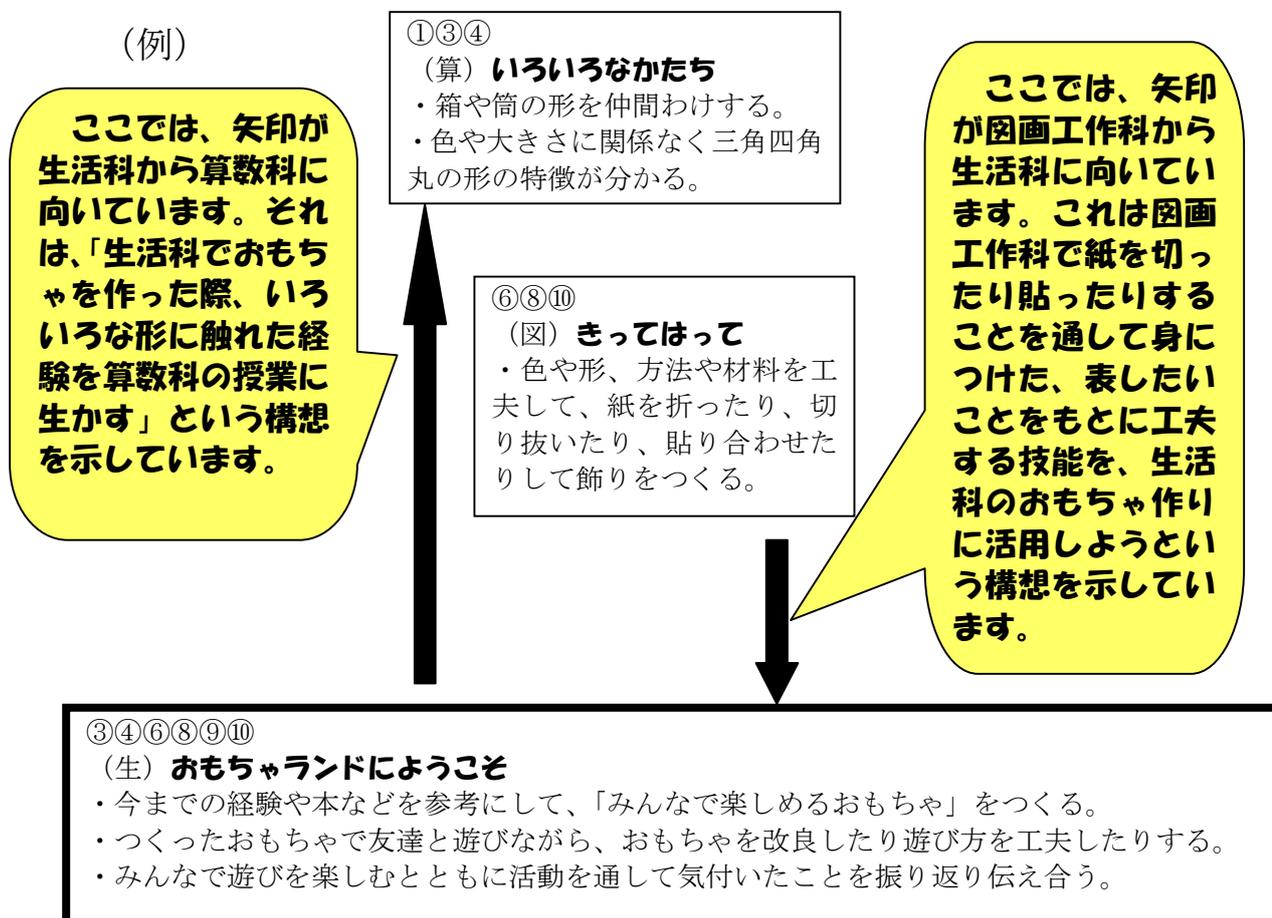
一方、小学校教育において、「物語を紹介しよう」という国語科の単元は、「知識・技能（主に生活上の自立）」の欄に示されています。これは、この単元においては、「知識・技能」を主なねらいとするという意味で、他の2つの資質・能力を考慮していないという訳ではありません。実際に単元を構想する際は、3つの資質・能力を育成するための目標を設定し、指導内容と授業展開を考案します。

また、学習指導要領では、幼児期の教育と小学校教育との円滑な接続が図られるよ

う、生活科を中心に合科的・関連的な指導を工夫することを求めています。

そこで、この全体計画例では、1年生の4月に、生活科を中心とする合科的な単元として「スタートカリキュラム」を設定しました。「スタートカリキュラム」では、三つの活動として「せいかつタイム」「なかよしタイム」「まなびタイム」を設定しました。各学習活動の（ ）は3つの活動を示しています。(せ)となっていれば、「せいかつタイム」を表します。

5月以降では、生活科と各教科等の指導内容が相互に関連するように各教科の単元を配列しました。各単元の（ ）は教科等を示しています。(国)となっていれば、国語科を表します。また、各教科間の主な関連は矢印で示しています。矢印の向きは、その教科間の関連性を表していますが、この向きはあくまでも一例です。単元の構想次第では、逆向きになる場合も考えられます。



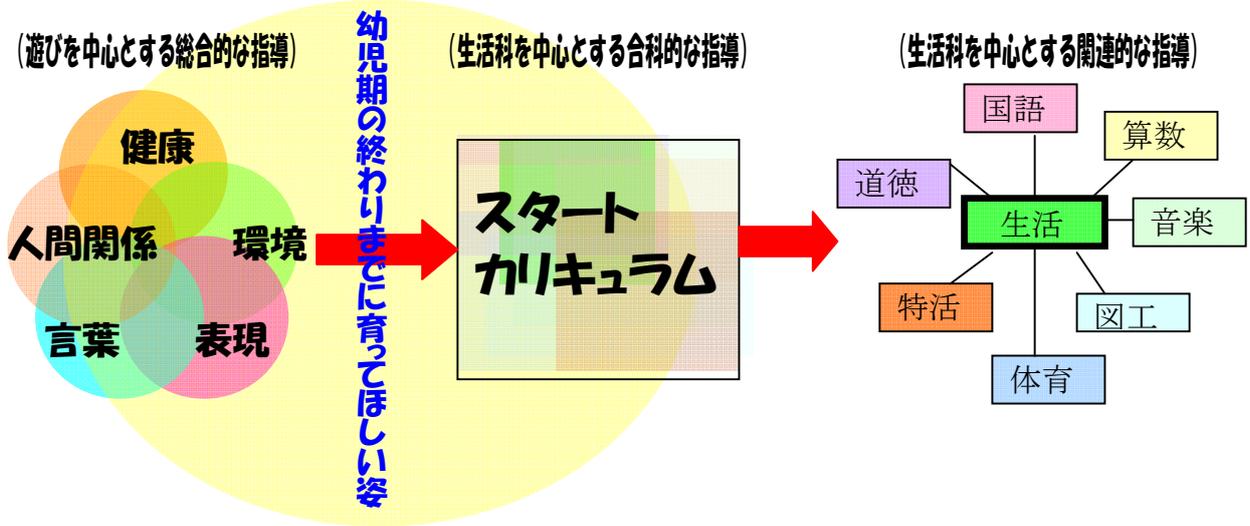
接続期における全体計画にそった5歳児後半の指導計画例をP32から、小学校1年生のスタートカリキュラムの例をP41からそれぞれ掲載しています。

(接続期の全体計画例における教育・保育のイメージ図)

《幼児期》

《小学校1年4月》

《小学校1年5月以降》



(資料1) 接続期における全体計画例

【知識及び技能の基礎(主に生活上の自立)】		集団生活をおくる上で必要な生活上のマナーやきまり、技能を身につけ、自分のことは自分でできるようにする。																														
【思考力・判断力・表現力等の基礎(主に学びの自立)】		よりよい活動になるように、対象となる「人・物・こと」に主体的に関わり、自ら判断して、行動する。																														
【学びに向かう力・人間性等(主に精神的な自立)】		できたこと、分かったこと、役に立ったことなどを実感し、自分の成長を認め、次の活動や体験への意欲をもつ。																														
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月																						
ステージ	第1ステージ						第2ステージ						第3ステージ			第4ステージ																
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> グループやクラスの友達の中で、自己を十分に発揮する。 友達と一緒に考えたり、アイデアを出したり、相談したり、葛藤したりしながら、共通の目的に向かって遊びを進める楽しさを味わう。 						<ul style="list-style-type: none"> 大きくなったことを自覚し、自信をもつとともに、1年生になることに期待をもつ。 友達と一緒に、見通しをもって生活や遊びを進め、園生活を楽しむ。 これまでお世話になった人たちに感謝の気持ちをもつ。 						<ul style="list-style-type: none"> 健康や安全に気を付け、規則正しく生活したり、仲よく活動したりすることを通して、安心して楽しく学校生活をスタートする。 学校の施設の様子や一日の生活サイクル、先生など学校生活を支えている人々や友達のことが分かる。 			<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの学校生活は、先生や友達だけでなく、家族や地域の人々、地域の様々な場所とかかわっていることが分かる。 集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考えたり、友達と意見を伝え合ったり、同じ目標に向かって協働したりして、生活をよりよく豊かにする。 																
知識・技能の基礎(主に生活上の自立)	<p>(健) 自分の所持品の整理や始末を丁寧に行う。②⑤</p> <p>(健) 必要性を感じて、協同・共有のものを片付ける。⑤②</p> <p>(健) 気温に応じて衣服を調整したり、身なりを整えたりする。①②</p> <p>(健) 食べることに楽しさが分かり、食べ物に関心をもつ。①</p> <p>(健) 様々な食べ物に関心を持って進んで食べようとする。①⑦</p> <p>(人) 友達と生活する中で、決まりの大切さに気付く守ろうとする。④</p> <p>(健) 一日の流れに大よその見通しをもち、少しずつ時間を意識して生活をする。①②④</p> <p>(健) 体を動かすことを楽しみ、心地よさを感じる。①</p> <p>(人) ルールのある遊びや集団での遊び、いろいろな運動遊びを楽しむ。①②④</p> <p>(人) ルールのある遊びの楽しさが分かり、自分たちでルールを作ったり、変化させたりしながら遊ぶ。①③④⑤⑥</p> <p>(環) 順番や勝敗のある遊びを通して、人数や物の数を数えたり、比べたりする。①⑧</p> <p>(人) 少し苦手なことにも取り組もうとする。②</p> <p>(健) 遊びに必要な用具を選び、安全に気を付けながら使う。⑤</p> <p>(言) 友達や先生、地域で出会った人など、身近な人に進んで挨拶する。⑤</p> <p>(人) 園外の人に親しみ、人と関わる楽しさを感じ、社会生活に望ましい習慣や態度を身に付ける。⑤</p> <p>(人) 集団の中での決まりや約束を守って生活する。④</p> <p>(環) 物の仕組みに関心をもったり、試したり、確かめたりして遊ぶ。⑥</p> <p>(環) 身の回りの物の物の数や大小、数字などに興味を持ち、遊びに取り入れる。⑧</p> <p>(環) 遊びや生活の中で、比べたり、分けたり、数えたりする。⑧</p> <p>(環) 体験したことや経験したことを遊びに取り入れ、発展させる。⑥⑤</p> <p>(言) 絵本や物語の世界を楽しみ、感動したり、イメージを広げたりする。⑨⑩</p> <p>(表) 思ったことや経験したことを言葉や体などで表現することを楽しむ。⑨⑩</p> <p>(言) 自分の考えたことを、自分の言葉で話す。⑨</p> <p>(言) 友達の話をよく聴き、理解する。⑨</p> <p>(人) 友達と考えを出し合ったり、尊重したり、折り合いを付けたりしながら、遊びや活動に取り組む。③⑥⑩</p> <p>(人) 友達とイメージを伝え合いながら、役割分担をしたり、協力したりして遊びを進める。③④⑤⑥</p> <p>(人) 友達との思いの違いを感じ、話し合いを重ね、歩み寄ろうとする。③⑥</p> <p>(人) トラブルになった時は、自分たちで話し合い、解決しようとする。④⑤⑥</p> <p>(人) 友達と共通の目的をもって取り組み、力を合わせて遊びを進める喜びを味わう。①③⑥⑩</p> <p>(人) 友達が困っている時は、進んで声を掛け助けようとする。④⑤</p> <p>(人) 誰かの役に立つ喜びや充実感を感じる。⑤⑦</p> <p>(人) 当番の必要性がわかり、責任をもって当番活動を進める。④</p> <p>(環) 愛情を持って、動植物に優しくかわる。⑦</p> <p>(環) 冬のある自然現象に興味をもって関わり、発見したり不思議に思ったり、試したりする。⑥⑦⑨</p> <p>(環) 木の実や木の葉など身近な自然物を遊びに取り入れ、工夫して遊ぶ。⑦⑩</p> <p>(環) 身の回りの自然に気付き、驚いたり、感動したりする。(空の色、風、冷たさ、霜など)⑦⑩</p>						<p>(健) 自分たちの身の回りを自分たちできれいにしようとする。⑤②</p> <p>(健) トイレの正しい使い方が身に付き、清潔に使う。⑤①</p> <p>(健) 自分の健康に関心をもち、進んでうがいや手洗いをする。①</p> <p>(健) 食事に関するマナーを守って楽しく食べる。①④</p> <p>(健) 箸を正しく使って使い、鉛筆の持ち方の基礎を身に付ける。</p> <p>(健) いろいろな遊びに進んで取り組み、体を十分に動かして遊ぶ。①</p> <p>(人) 友達と競い合ったり励まし合ったりしながら遊びを進める。①②④⑤</p> <p>(健) 危険な遊び方や場所に気付き、自分で判断して安全に行動しようとする。①②④</p> <p>(人) 少し難しいことに繰り返し挑戦し、諦めずやろうとする。①②</p> <p>(人) 挑戦したことが少しずつできるようになったことに自信をもつ。①②</p> <p>(言) 進んで挨拶を交わす心地よさを感じる。②⑤</p> <p>(言) 場に応じた挨拶を進んでしたり、心をこめて「ありがとう」等言ったりする。⑤⑨</p> <p>(人) よいことと悪いことが分かり、自分で考えて行動する。②④⑥</p> <p>(環) 文字や数字を使うことの便利さや意味に気付き、遊びや生活の中で活かす。⑧</p> <p>(環) 友達とイメージを共有しながら、いろいろな方法で豊かに表現する。⑩⑨</p> <p>(言) 場の雰囲気や状況に合わせた言葉や声の大きさ等が分かり、相手にわかるように話す。④⑤⑨</p> <p>(人) 友達によさや頑張りを認め合い、みんなで遊びや活動を進める喜びを感じる。③⑤⑥</p> <p>(人) 友達と共通の目的をもって取り組み、力を合わせて遊びを進める喜びを味わう。⑨</p> <p>(人) 友達と共通の目的を感じ、話し合いを重ね、歩み寄ろうとする。③⑥</p> <p>(人) 4歳児に飼育当番などのやり方や用具の使い方などを優しく教える。④⑤⑨</p> <p>(人) 3歳児や4歳児と一緒に遊んだり、一緒に昼食を食べたりして、+</p> <p>(環) 日差しの変化や草花の芽吹きから春の訪れを感じる。⑥⑦</p> <p>(環) 身の回りの自然や植物から季節の変化を見つけ、感じる。⑩⑦</p> <p>(健) 就学に期待をもち、成長を感じながら生活する。⑥</p>						<p>①②④ (せ) 自分のことは自分で</p> <p>①②④ (ま) 教科書をひらいてみよう</p> <p>①⑥⑧⑨⑩ (ま) 友達と一緒に学ぼう</p> <p>①②④ (せ) 学校の生活のリズムに慣れてよう</p> <p>①⑥⑧⑨⑩ (ま) 思ったことを伝えよう</p> <p>⑧⑨ (ま) 声をだそう字をかこう</p> <p>③④⑤⑥⑦⑨ (ま) 学校を探検しよう</p> <p>③⑤⑥⑦⑧⑨⑩ (ま) 探検したことをまとめよう</p> <p>③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ (ま) 探検したことを紹介しよう</p> <p>③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ (ま) 探検したことを紹介しよう</p> <p>①②④ (せ) 1日の生活の見通しをもとう、振り返ろう</p> <p>①②④ (せ) 気持ちよくすごそう</p> <p>①②④ (せ) 安全に気を付けて</p>			<p>⑥⑧ (算) いくつといくつ</p> <p>①③④ (体) おにごっこ</p> <p>⑧⑩ (音) 身近な物でリズム</p> <p>⑧ (算) たしざんひきざん</p> <p>⑨⑩ (国) いろいろなかたち</p> <p>⑥⑧⑩ (図) きって</p> <p>④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ (生) 公園に行こう</p> <p>④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ (生) おもちゃランドにようこそ</p> <p>③④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ (図) 自然となかよし</p> <p>④⑤⑥⑦⑧⑨⑩ (道) きまりはなぜあるの?</p> <p>①④⑤ (特) 安全に気を付けて</p>			<p>⑧ (算) たしざんひきざん</p> <p>⑨⑩ (国) 物語を紹介しよう</p> <p>③④⑤⑥⑦⑧⑩ (図) ●●小ガールデンへようこそ</p> <p>①③⑩ (体) 生き物になりにきて</p> <p>③⑦⑩ (音) ひらいたひらいた</p> <p>①②④⑥⑦⑧⑨⑩ (生) きれいな花をさかせよう</p> <p>④⑦ (道) いのちのたいせつさ</p> <p>①②⑤⑦ (特) チャレンジ！夏休み</p>													
思考力・判断力・表現力等の基礎(主に学びの自立)							<p>① 健康な心と体</p> <p>② 自立心</p> <p>③ 協同性</p> <p>④ 道徳性規範意識の芽生え</p> <p>⑤ 社会生活との関わり</p> <p>⑥ 思考力の芽生え</p> <p>⑦ 自然との関わり生命尊重</p> <p>⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p> <p>⑨ 言葉による伝え合い</p> <p>⑩ 豊かな感性と表現</p>																									
学びに向かう力・人間性等(主に精神的な自立)																																
行事例	運動会		就学前健診		秋の遠足		クリスマス		もちつき		お正月		豆まき		小学校訪問(入学説明会)		卒園式		入学式		上級生との交流		家庭訪問		遠足		交通安全教室		プール開き		1学期終業式	
内容(領域・教科)	5領域 (健)健康 (人)人間関係 (環)環境 (言)言葉 (表)表現												スタートカリキュラム (せ)せいかつタイム (ま)まなびタイム			教科等 (国)国語科 (生)生活科 (算)算数科 (音)音楽科 (図)図画工作科 (体)体育科 (道)道徳科 (特)特別活動																

2 5歳児後半の指導計画例（資料2及び3）

(1) 指導計画の考え方

幼児期の教育において、幼児の発達の特徴から、子どもが自ら周囲の環境に関わり、遊びを展開する充実感を味わいながら様々な体験を重ねていくようにすることが大切です。

しかし、子どもたちをただ遊ばせていればよいわけではありません。各園の教育の目標を達成していくために、あらかじめ子どもの発達に必要な経験を見通し、発達の特徴を踏まえつつ、教育課程にそった指導計画を立てて継続的な指導を行うことが必要です。

指導計画には、年、学期、月などの発達の時期を単位とした長期の指導計画と、週、1日を単位とした短期の指導計画とがあり、実践を通して教育目標を具現化していきます。

(2) 作成上の留意点

- ア 指導計画は、一人一人が幼児期にふさわしい生活を展開して必要な経験を得ていくよう立てるもので、一つの仮説です。形式も園の実情に任されています。
- イ ねらいと内容は、幼稚園教育要領（幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針）第2章に示されている5領域に基づいて設定します。
- ウ 前の時期の指導計画のねらいや内容がどのように達成されてきたか実態を捉え、その次の時期の園生活の流れや遊びの展開を見通すようにします。
- エ 子どもの興味や発想、一人一人の発達の実情を踏まえながらも、共通する部分や全体的な様相を手がかりにして作成します。
- オ 保育者は、子どもと共に生活しながら、その時期にどのような育ちを期待しているか、そのためにどのような経験をする必要があるかなど、子どもを深く具体的に理解することが大切です。
- カ 指導計画は、方向性を明確にもちながら、子どもに寄り添い、柔軟に変化していくものです。ねらいや内容の修正、環境の再構成など幼児の生活に応じて常に変えていきます。

(3) 小学校教育への接続

園では計画的に環境を構成し、遊びを中心にした生活を通して体験を重ね、一人一人に応じた総合的な指導を行っています。一方、小学校では、時間割に基づき、各教科の内容を教科書などの教材を用いて学習しています。このように、園と小学校では、子どもの生活や教育方法が異なっています。

その違いを相互に理解し、子どもの発達を長期的な視点で捉えていくことが大切です。

す。今回の指導計画の例では、「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」を★印と番号で表し、その月の中で子どもがどのように育ちつつあるか（育てほしいか）を示しています。

(4) 指導計画例について

11月の指導計画（資料2）

11月頃になると、それまでの遊びの経験が積み重なり、「みんなの力を合わせるとより大きな力になる」ということを実感するようになります。一方、協同的な遊びの中で、トラブルが起きることも多くなり、解決に向けて、どのように自分の気持ちに折り合いをつけたり友達に声を掛けたりすればよいか、学ぶ時期でもあります。

また、身の回りにある物を使って自分の想像力を働かせて遊ぶ子どもと、興味はあるが自分から積極的に活動できない子どもとの差も、はっきりしてきます。

11月の指導計画を立てる際は、子どもの興味を出発点にしながら、協同的な遊びが成立する環境を整えるとともに、個に対するきめ細かな援助を考えることが必要です。

内容	ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と考えを出し合い、共通の目的をもって遊びを創る楽しさを味わう。 ・秋の自然物や色々な素材に興味をもち、自分たちの遊びに取り入れて遊ぶ。 ・友達と一緒に戸外で体を動かして遊ぶことを楽しむ。 	幼児期の終わりまでに育てほしい姿
	主な領域	内 容	
	人間関係 言葉	・友達と相談したり、役割を分担したり、一緒にやったりしながら、力を合わせて遊びを進めることを楽しむ。	協同性、道徳性・規範意識の芽生え、思考力の芽生え、言葉による伝え合い
	環境 表現	・身近な素材や自然物を遊びに取り入れて、自分たちの遊びがより楽しくなるようにする。	思考力の芽生え、自然との関わり・生命尊重、数量や図形、標識や文字等への関心・感覚、豊かな感性と表現
	言葉	・自分の考えを相手に分かるように伝えたり、相手の考えを受け入れたりしながら遊ぶ。	協同性、道徳性・規範意識の芽生え、言葉による伝え合い
健康 人間関係	・いろいろな遊びに挑戦したり、友達とルールのある遊びをしたりして、楽しく体を動かして遊ぶ。	健康な心と体、自立心、協同性、道徳性・規範意識の芽生え	

2月の指導計画（資料3）

2月頃になると、年長の子どもたちにとって小学校の話題が身近になってきます。楽しみな思いが膨らむ一方、友達と違う小学校に入学する子や、未知の世界に不安を抱く子も見られます。

また、2月は園生活のまとめの時期でもあります。一緒に生活や遊びを共にしてきた友達との関係が深まり、友達のいいところもちょっと気になるところも互いに分かり合い、いろいろな場面で話し合っ遊びを進めるようになってきます。

2月はそんな子どもたちの喜びや不安を受け止めながら、協同的な遊びを進めたり、思い切り遊ぶ機会を設けたりしながら、一人一人に自信をもたせ、大きくなったとい

う自覚を育むことが大切です。

ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と共通の目的に向かって考えや力を出し合い、表現する楽しさや満足感を味わう。 ・友達と一緒に戸外で体を十分に動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ・季節の移り変わりを感じると共に、卒園や入学に期待をもつ。 		
	主な領域	内 容	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
内 容	人間関係 言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを話したり、友達の考えを受け入れたり、みんなで考え合ったりしながら、共通の目的に向かって力を合わせる。 	協同性、道徳性・規範意識の芽生え、思考力の芽生え、言葉による伝え合い
	表現 健康 言葉	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の役割を楽しみながら演じたり、責任もって仕事を行ったり、友達と心を合わせて表現したりする。 	豊かな感性と表現、協同性、言葉による伝え合い、道徳性・規範意識の芽生え、
	健康 環境 人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と競ったり、励まし合ったり、誘い合ったりしながらいろいろな遊びに挑戦し、体を十分に動かして遊ぶ。 	健康な心と体、言葉による伝え合い、数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然に目を向け、冬から春への季節の変化を感じる。 	自然との関わり・生命尊重
	環境 健康	<ul style="list-style-type: none"> ・卒園が近づいていることを感じ、園生活を十分に楽しむ。 	自立心、健康な心と体

(資料2) 5歳児 11月指導計画例

前月の姿(成果と課題)	<ul style="list-style-type: none"> 運動会では、競技やリズムで子どもたちは十分に力を出していた。リレーでは、普段のように走る順番をチームで話し合っ て決めたため、どの子も納得した順番で走ることができた。みんなの力を合わせるとより大きな力になることを、子ども たち自身が気付くことができた。この経験から、友達と互いの考えを出し合っ て遊ぶことにつなげていきたい。 どんぐりや木片で、車やスカイツリーなどイメージをもって作ったり、ダンボールを使って、友達とお風呂や遊び場を作 ったりすることを楽しんでいる姿が見られる。一方、興味はあるが、どんな物を作りたいかなかなか明確にならない子も いるため、その子なりに小さな目標をもって遊べるように、関わりながら一緒に考えていきたい。 遊びの中で、トラブルが生じることが多い。口調がきつくなる子もいる。自分たちで折り合いをつけようとする子、友達 にどのように声を掛けたいかわからない子、教師を呼んで終わる子もいる。トラブルに向き合う気持ちを大事にしなが ら、子どもと一緒に考え、保育者が口を出し過ぎないようにしたい。また、強い言い方については、個々に話し方に気 付かせていく。 体を動かす遊びを楽しむ子が多くなったが、中にはあまり興味をもてない子もいる。やってみようという気持ちを盛り上 げ、誘い掛けながら、やってみたら楽しかったという経験を積んでいきたい。 	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 友達と考えを出し合い、共通の目的をもって遊びを作り出していき楽しさを味わう。 秋の自然物や色々な素材に興味をもち、自分たちの遊びに取り入れて遊ぶ。 友達と一緒に戸外で体を動かして遊ぶことを楽しむ。
<p style="text-align: center;"><>遊びのかたまり ○予想される遊び ・予想される子どもの姿 ◇環境 ☆援助・配慮事項 ★幼児期の終わりまでに育ってほしい姿につながるもの</p>		内容	<ul style="list-style-type: none"> 友達と相談したり、役割を分担したり、一緒にやったりしながら、力を合わせて遊びを進めることを楽しむ。[人間関係(5)(6)(7)(8)(12)、言葉(1)(2)(3)(4)] 身近な素材や自然物を遊びに取り入れて、自分たちの遊びがより楽しくなるようにする。[環境(2)(7)、表現(5)(7)] 自分の考えを相手にわかるように伝えたり、相手の考えを受け入れたりしながら遊ぶ。[言葉(2)(3)(4)] いろいろな遊びに挑戦したり、友達とルールのある遊びをしたりして、楽しく体を動かして遊ぶ。[健康(2)(3)(4)、人間関係(11)]
<p><友達と考えを出し合っ て遊びを作ろう></p> <p>○ごっこ遊び(基地・家作り、やまんば迷路、レストラン、美容院、どん ぐりスイッチ、ゲーム屋など)</p> <p>◇材料や用具を置く場所、できたものを飾る(保管する)場所などを子ども もと決め、整頓し、分かりやすくする。</p> <p>◇使う用具はグループごとに分け、すぐ使えるようにしておく。</p> <p>◇セロテープ、ガムテープ、紙類、マジック、ダンボールカッター、はさ み、紐、すずらんテープ、綿、どんぐり、松ぼっくり、秋の木の実、ダ ンボール、空き容器など</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の決めた遊びにすぐ取り掛かり、熱心に商品や必要な物を作る。 友達のやっていることに興味をもち、(他のところに)出掛けて行って は何度も試したり遊んだりする。 友達と一緒に進めながら、笑い合ったり、「それ、いいね」と認め合っ たりする。 時に自分の思いが上手く伝わらず、すねたり、その場から離れたりする。 <p>☆子どもの考えていることを丁寧に聞きながら受け止め、思いが実現でき るように一緒に考えたり、援助したり、提案したりする。★⑩</p> <p>☆やりたい物が共通な子ども同士で集まって、小グループで遊びのコーナ ーを作るようにする。</p> <p>☆自分たちなりにめあてをもち、遊びを決めていく姿を認め、自信をつけ ると共に、遊びを進める面白さが味わえるようにする。★①③</p> <p>☆一部の子の思いだけで遊びが進んでしまわないよう配慮する。全体の様 子を見ながら、思いを出しにくい子の話をじっくり聞く場を設けたり、 自分の言葉で伝えられるよう支援したり、友達と思いが共通になるよう に橋渡しをしたりする。★⑨③</p> <p>☆主張がぶつかってトラブルになった時は、双方の話を落ち着いて聞き、 子どもと一緒に折り合える点を探していく。保育者主導で判断してしま わないようにする。★⑤⑥⑨</p> <p>☆グループの必要に応じていろいろな物を使う中で、無駄にしない、共同 の物を丁寧に扱うなど、子どもに呼び掛けると共に、見届けたり、気付 かせたりする。また、ダンボールカッターやはさみなど、危険な使い方 や持ち歩きをしないよう、安全面には十分気をつける。★②④</p>	<p>☆振り返りの時間を設け、他のグループの友達がどんなことをしているの か、情報を共通にする場面を作る。その際、どんなことをしているか、 困っていることはどんなことか、明日はどうしたいか等、グループの進 捗状況を話したり、子ども同士で質問や確認をしたりする。★⑤⑥</p> <p>◇使った物やコーナー周辺を片付けて、毎日が気持ちよく過ごせるように する。★②⑤</p> <p>☆自分たちが行き来して遊びを楽しむと共に、小さい子を誘って楽しんで もらう経験も大切にする。相手のことを考えて行動したり、言葉を掛け たりする姿を大いに認めていく。★④</p> <p>☆日や時間の見通しがもてるよう、時計やカレンダーを活用する。★①⑧</p>	<p><友達と一緒に体を動かして遊ぼう></p> <p>○友達と誘い合っ て遊ぶ(ドッジボール、サッカー、リレー、鬼遊び、へ びじゃんけん、踊りなど)</p> <p>○挑戦する遊び(鉄棒、登り棒、雲梯、縄跳び、一本下駄、フープ、竹馬)</p> <ul style="list-style-type: none"> やりたい遊び(目的)があっ て自分から園庭に出掛けていく。 友達と誘い合いながら、一緒に遊ぶ。 ルールを守る子が多いが、ルールを自分本位に変える子もいる。 「線、描いて」と、教師に要求してくる。 できるようになりたいという思いから、繰り返しやってみようとする。 友達の様子を気にしているが、なかなか園庭に出ようとし ない。 <p>◇子どもが使いたい物が出せるように、運びやすいところに出しておく。 (ラインカー、じょうろ、竹馬、ボール、長縄、フープなど)</p> <p>☆友達の頑張っている姿やよいところに目が向くように、日頃から子ども たちの姿を話題にしていく。★⑥</p> <p>☆ルールは自分勝手に変えると遊びが楽しくなくなることに気付かせ、話 し合いを通して共通になるようにしていく。★③④</p> <p>☆保育者も一緒に遊びながら、体を動かして遊ぶ楽しさを共有する。運動 的な遊びに消極的な子もいるので、誘い掛けながら、一歩踏み出す姿を 認め、体を動かすことが楽しいことだと感じられるよう援助していく。★①②</p> <p>☆挑戦している姿を具体的な言葉で認め、励ましていく。★①②</p>	<p><自然物や素材を取り入れて遊ぼう></p> <p>○自然物を使って遊ぶ(アクセサリー作り、組み合わせで遊ぶ)(染物) (サツマイモのつるで遊ぶ、リース作り、大きさ比べ)(クッキング)</p> <p>○自然に触れる(サツマイモ掘り、梶原山園外保育、秋の風・空、花摘み)</p> <p>○栽培(冬野菜の植え、水掛け、水仙栽培)</p> <p>◇秋の実のコーナー(どんぐり、杉の実、楓の実、ピラカンサス等)</p> <p>◇素材(木片、ダンボール、ボンド、落葉)(紐、ビーズ、ストロー等) 用具(どんぐり穴あけ)</p> <p>☆サツマイモ掘りでは、色や形から見たてたり、大きさを比べたり、仕分 けをしたり、重さを量ったりして、みんなで育て収穫した喜びが味わえ るようにする。★⑧</p> <p>☆子どもたちがどのようにサツマイモのつるに関わるか様子を見ながら、 アイデア豊かに遊ぶ姿を大いに認める。★②⑦</p> <p>☆(製作の場面では)じっくり集中して自分の力で作ろうという姿や、友 達とやり方を教え合う姿を認める。また、教師は戸惑っている子への支 援をして、自分でできたという喜びが味わえるようにする。★②⑥</p> <p>☆自分たちで収穫した物を調理することを提案し、芋を使ったクッキング を通して秋の味覚を楽しめるようにする。(スイートポテト、サツマイ モカレー、蒸しパン、ふかし芋等)★①</p> <p>☆園外保育を通して、自分たちの地域を見たり、秋ならではの身近な自然 (季節)を感じたり、気付いたりするよう、保育者自ら声に出し、子ども と感動を共有する。★⑦</p> <p>☆自然物や木の実のは分類し、自由に使えるようにコーナーに出しておく。 独り占めしてしまうような場合は、どうすればよいか考え合う場を作 り、みんなの問題とする。★⑤⑥</p> <p>☆どんぐりの穴あけ機は、使い方を教え、自分たちで安全に使えるように する。また、使う場所を決めておく。★④⑤</p> <p>◇染物用のマリーゴールドは、子どもたちと花を摘み、集めておく。</p> <p>☆(絞り染めによる)模様の面白さや違いに期待して毎日少しずつ取組む 姿を認め、どんな風に見えるか一緒に楽しみにしていく。★②</p> <p>☆冬野菜や水仙など、自分から気付いて水掛けや世話をしようとする姿を 認めていく。★⑦</p>
生活習慣	絵本・紙芝居等	歌・手遊び等	<p>家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> 就学時健診に向けて、園での子どもたちの様子を伝える。初めて入学を迎える保護者には、あまり気負わず生活するように伝える。 家庭でも、自分の身支度などを少しずつ子どもに任せて見届けるよう、懇談会などで働き掛ける。

※ ★丸数字は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

(資料3) 5歳児 2月指導計画例

<p>前月の姿(成果と課題)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外で、竹馬やホッピング、縄跳びや一本下駄などに挑戦する子が多くなった。「できるようにになりたい」という思いをもって繰り返しやっている姿や、友達と励まし合いながら一緒にできるようになることを楽しんでいる姿が見られる。自分のできる遊びに満足し、なかなか他の遊びに挑戦してみようとしないう子もいる。 ・2学期末からドッジボールを誘い合って楽しむようになった。今まで集団遊びに参加することが少なかった子も進んで仲間入りするようになり、「やってみたら面白かった!」と伝えてきた。友達と一緒にだからこそできること(楽しさ)を大切にしていきたい。 ・「やまんば山のモッコたち」の読み聞かせを始めた。どの子も興味深く聴き、自分なりにイメージを広げている。この童話を参考にしながら、子どもたちと劇のストーリーを考え始めた。子どもたちのアイデアを受け止め、活かすよう、話し合いながら進めていきたい。 ・お正月遊びをきっかけに、今まであまりかかわりのなかった子どもたちが一緒に遊ぶ姿が多く見られるようになり、互いのよさに気付くようになってきた。 ・4歳児に声を掛けながら飼育当番のやり方を丁寧に教えている姿が見られる。 	<p>ねらい</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と共通の目的に向かって考えや力を出し合い、表現する楽しさや満足感を味わう。 ・友達と一緒に戸外で体を十分に動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ・季節の移り変わりを感じるとともに、卒園や入学に期待をもつ。 <p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを話したり、友達の考えを受け入れたり、みんなで考え合ったりしながら、共通の目的に向かって力を合わせる。【人間関係(4)(5)(6)(7)(8) 言葉(1)(2)(3)(8)(9)】 ・自分の役割を楽しみながら演じたり、責任をもって仕事を行ったり、友達と心を合わせて表現したりする。【表現(4)(6)(7)(8) 健康(8) 言葉(4)(7)】 ・友達と競ったり、励まし合ったり、誘い合ったりしながらいろいろな遊びに挑戦し、体を十分に動かして遊ぶ。【健康(2)(3)(4)(10) 環境(2)(8) 人間関係(4)(5)(7)(8)(11)(12)】 ・身近な自然に目を向け、冬から春への季節の変化を感じる。【環境(1)(2)(3)(4)】 ・卒園が近づいていることを感じ、園生活を十分に楽しむ。【環境(7) 健康(9)】 	
<p><>遊びのかたまり ○予想される遊び ・予想される子どもの姿 ◇環境 ☆援助・配慮事項 ★幼児期の終わりまでに育ってほしい姿につながる援助等</p>				
<p><共通の目的に向かって力を出し合おう>～劇場ごっこに向けて～</p> <p>○劇遊び、歌、踊り、楽器遊び(合奏) ○劇のストーリーを決める ○自分の役割を決め、果たす(劇場ごっこの司会、係の仕事、役など) ○劇場ごっこに必要な物を作る(衣装、背景、小道具など)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇の展開について子どもたちと一緒に考えるなかで、ぶつかり合うこともでてくる。 ・何をやりたいか考え、やりたいものを口々に言う。(役、楽器、係) ・人前ではっきり話せる子、自信がもてずなかなか言えない子がいる。 ・友達のよさを認め合ったり、もっとよくする方法に気付いたりする。 <p>◇必要な物を作れるよう、材料や道具を準備しておく。★⑥ (役割が決まった子ども同士で必要なものを考えて作るよう準備する。)</p> <p>◇子どもから要求してくるものを、一緒に探したり準備したりする。 ◇劇場ごっこまでの日程など、見通しをもって過ごせるように、カレンダーを活用する。★⑧</p> <p>☆子どもたちが自分で考え、自分の言葉で話し合いながら劇場ごっこに向けて進めていくように見守り、必要に応じて助言したり、考えをまとめたりする。★③⑥⑨</p> <p>☆特定な子どもの意見だけで進まないよう、意見を言わない子の思いも引き出すようにしていく。★⑨</p> <p>☆役は初めからは固定せず、繰り返し遊びながら決めていく。★⑩</p> <p>☆一つの目的に向かってみんなで作っていきこうとする姿を十分に認め、友達と力を合わせる楽しさを感じられるようにする。★③</p> <p>☆楽器は、すぐに触れられるように保育室のコーナーに置いておく。扱いが乱暴にならないよう、あらかじめ使い方を約束しておくとともに、きちんと見届ける。★②⑩</p> <p>☆ストーリーの中で遊びながら、見ている人に聞こえるように大きな声で話したり、自分で考えた身振りをつけて表現したりする姿を認めていく。★⑨⑩</p> <p>☆一人一人の頑張っていることを具体的に認め紹介しながら、自信や意欲をもてるようにすると共に、友達のよさを感じられるようにする。★⑥⑨</p>				
<p>生活習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と声を掛け合いながら生活を進める。 うがい・手洗いを理由が分かり進んで行く。 皆で使う道具や遊具を大切に扱い、片付ける。 ・元気な声で挨拶したり返事をする。 名前を呼ばれたら元気に返事をする。 足をそろえて椅子に座る。 相手の方に体を向けて話を聴く。 	<p>絵本・紙芝居等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やまんば山のモッコたち ・牛方とやまんば ・泣いた赤鬼 ・氷の凶鑑 ・ゆき ・のはらのひなまつり ・はなさきやま 	<p>歌・手遊び等</p> <p>【歌】1年間歌った歌、みんなともだち、いちねんせいになったら、やさしい心つかまえて、カレンダーマーチ、さよならぼくたちのようちえん 【踊り】赤鬼と青鬼のタンゴ、タタロチカ、劇中の創作ダンス 【手遊び】鬼のパンツ</p>	<p>製作遊び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇場ごっこに向けて必要な物を、子どもと一緒に作る。【お面、衣装、小道具、背景など】 ・思い出の絵の表紙 ・雛人形作り(紙粘土) 	<p>家庭との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ・劇場ごっこに向けての取組の様子や頑張っていることを保護者に伝え、一人一人が成長した実感を共有する。 ・就学に向けての保護者の不安を受け止め、前向きな気持ちになれるよう支援をする。 ・家庭での生活習慣の見直しをお願いする。

※ ★丸数字は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

★ こんなエピソード あいました



月の指導計画をもとに日々の保育を実践する中で、様々な子どもの姿が見られます。計画どおりにいかないことも多く、軌道修正が必要なときもあります。そんなときは、子どもたちと話し合い、子どもの思いをより深く理解しながら、遊びを進めていきます。ここでは、遊びの中で見られた子どもの姿を、エピソードとして紹介します。

資料2(11月指導計画例)のエピソード

ホントは仲よくあそびたかったんだよ！

～11月の保育実践より～

A子は、祖母がやっている美容師に憧れている。そのため、クラスの友達と一緒に遊ぶとき、「私は美容院やりたい！」と、真っ先に手を挙げていた。A子は日頃から思いをはっきり言えるというよさがある一方、やや強引に、友達を自分の思いに引き寄せる姿が度々見られた。担任は、A子のよさを認めつつ、友達の思いにも気付くようになってほしいと考えていた。

美容院ごっこに興味をもった女兒たちが4人集まり、どんな風にするか話し合った。「鏡がほしいねえ」「水道のところでやろうよ、鏡あるじゃん」「いいね」「髪の毛をきれいにするとき、お客さんにおしゃれもしてあげよう」「髪飾りやネックレスもあるといいね」「どうする？」「作ればいいじゃん」「そうだね」「好きなものを付けてあげて、“おしゃれやさん”にしようよ」などと話がどんどん盛り上がった。きれいなもの、おしゃれなものが大好きな4人だったため、話はすぐにまとまった。

4人は毎日、どんぐりでネックレスや指輪、ブレスレットを作ったり、キラキラしたビーズで髪飾りやカチューシャを作ったりした。時々自分の髪に飾ったり、互いに見せ合ったり、おしゃれやさんのコーナーに展示したりして、共通の思いをもって楽しそうに遊びを進めていた。4人は手先が器用で作ることが好きだったため、次々に素敵な飾りができていった。時折使いたい道具が重なって取り合いになったり、言い争いが起きたりすることもあったが、自分たちで何とか解決しながら、4人がばらばらになってしまうことはなかった。

ある日、他のグループの子がおしゃれやさんに遊びに来た。何人かお客さんが並ぶと、A子が「じゃあ、順番にやろう」と提案した。最初のお客さんをA子が担当し、次のお客さんはB子、その次はC子。お客さんはそれぞれにおしゃれをしてもらい、とても嬉しそうだった。

次のお客さんはA子の仲良しのE子だった。順番どおり、D子がE子を案内しようとしたとき、突然「次は、あたしがやる！」とA子が言い出し、E子を担当して

しまった。その途端、D子の表情がこわばった。D子はしばらく立ち尽くしていたが、突然走り出して部屋を飛び出していった。慌てて追いかけるB子とC子。A子はその様子を見ていたが、追いかけることはしなかった。

D子は階段の隅に座り、泣きじゃくっていた。困った顔でB子とC子は見えていたが、どう声を掛けたらよいか分からない様子だった。そこへ担任が現れ、「D子さん、どうしたの？」と静かに声を掛けると、すぐにB子とC子が事情を説明し始めた。二人とも、A子のやったことが原因だと分かっているのだが、それを言い出せない様子だった。担任は事情を把握していたが、D子本人の口から思いを聞きたいと考え、じっくり向かい合って話していた。やがてD子がぼつりぼつりと話し出した頃、様子が気になっていたA子がやって来た。

「Dちゃん、なんでいなくなるの？お客さん、来てるよ！」と責めるような言い方のA子。それに対して、ついにB子とC子も反論した。「Aちゃんが悪いじゃん。順番守らなくて！」「そうだよ、だからDちゃん嫌になっちゃったんだよ」とA子を責める。「だってさ」「順番って言ったのAちゃんじゃん」「でも！」と3人の言い争いが続いた。

やがて、担任は「Dちゃんはどう思ってるの？」と尋ねてみた。するとD子は、「あのね、私もやりたかったの・・・」と小さな声で、でもしっかりと答えた。すると、それを聞いたA子は、やがて一言「・・・ごめんね」。そしてB子が「うん、私も仲良く遊びたかったんだよ」。

まだ言葉足らずではあるけれど、一生懸命に自分の気持ちを伝えたD子。そんなD子の姿を見て、A子は自分のやったことを振り返ることができた。小さなトラブルを経験して、互いが思いを出し合い、4人のつながりはより深まっていった。

誰にも、得手不得手があります。思いを伝えることも同じで、はっきり考えを言える子ばかりではありません。そして、考えを言える子にもその子なりの課題があります。

トラブルは、子ども同士が互いの思いを知るチャンスです。保育者がその場面をどう捉え、どう関わるかによって、その後の子どもたちの関係が大きく変わってきます。

保育者は、子どもたちの状況をきちんとつかみ、どんな風に育ててほしいのかという願いをもって援助することで、子どもは少しずつ願った姿に近づいていきます。そのためにも、日頃から深く子どもを理解することが大切ですね。



資料3(2月指導計画例)のエピソード

やまんばとなかよくなっちゃえば？ ～2月の保育実践より～

昨年度末のこと、年中児は年長児と一緒に最後の園外保育に出掛けた。年長児は山頂を目指し、年中児は途中から分かれて別の目的地に行くことになっていた。年長児と分かれてすぐのこと、年中児が、山のふもとの小さな神社に古い祠（ほこら）を見つけた。木陰にひっそりと立っている祠。すると、「なんか動いたよ」と一人が言い出した。「黒いの見た！」「奥の方にいたよね」「うん、いた！」「やまんばだ！」「え～こわい！！」と大騒ぎになった。この日から“園の近くの山にはやまんばがいる”と子どもたちは信じるようになった。そんな子どもたちの思いを、担任はそっと受け止め見守っていた。

年度が新しくなり、年中児が年長児になっても、やまんばの存在は常に子どもたちの中にあつた。6月に園庭で遊んでいるとき、ふいに近くの山に向かって、「やまんば、出てこ～い」「怖くないぞ～！」と叫ぶ子がいた。それを聞いた他の子が、「だめだよ、出て来ないで！」とあわてて呼び掛ける一幕も。

9月、運動会での出し物を子どもたちと相談したとき、「やまんばをやっつけるようにしたい」というアイデアが出た。「いいね」「どうやってやっつけようか」とクラスで話し合い、ストーリーとリズム表現（踊り）をみんなで創作し、運動会で披露した。そのときは、“やまんばは「参った、もう悪いことはしない」と山に逃げて行った”という話になった。

11月、クラスのみんなで遊び場を作った。ダンボールをつなげて大きな『こわい迷路』を作り、暗さや狭さ、怖そうな効果音を楽しんだ。迷路の途中にはやまんばも登場した。子どもたちは交代で白い着物を着てやまんばに変身し、年中児や年少児をちょっぴり怖がらせていた。

園では、2月半ばに『劇場ごっこ』が行なわれる。そこで、1月、劇場ごっこに向けて、どんなことをやりたいか話し合ったところ、担任が予想していた通り、子どもたちからやまんばの話が出てきた。「前に運動会でやっつけたから、逃げちゃったよ」「本当にいなくなったのかな」「悪いことしないって、ホントかな？」「また来るんじゃない？」「心配だなあ」…いろいろな発言が聞かれる中、一人の子がこんなことを言い出した。「ねえ。やっつけるんじゃないくて、仲良くなっちゃえば？」発想の転換だった。すると子どもたちはみんな、“仲良くなる”という提案に大賛成。

それから、子どもたちとストーリー作りが始まった。やまんばが出る絵本や童話を見たり聞いたりしてイメージを膨らめ、いろいろなやまんば（火のやまんば、水のやまんば、優しいやまんば、最強のやまんばなど）がでてくる全く新しいストーリーを創っていった。子どもたちが怖いやまんばに会い、戦ったり、技を教え合ったり、一緒に遊んだりすることを通して、最後にはやまんばと仲良しになり、やまんばも「もうみんなを脅かさない。世界中を守る」と約束してくれるという内容になった。

ストーリーは遊びながら少しずつ変化していったが、劇遊びとして実際に発表するとなると、困ったことがあった。例えば、やまんばは雲に乗って移動する設定なのだが、空を飛ぶことを表現するのは難しく、なかなかよい考えが出なかった。

ある日、画用紙を雲の形に切り抜き、椅子の背に貼った子がいた。その子は、椅子の上に立つと、周りを眺め、気持ちよさそうな表情をしていた。それを周囲の子が「いいね」「飛んでみたい」と褒め、劇遊びの小道具として採用することとなった。やまんばが移動する場面では、雲の絵の付いた椅子を係の子がさっと出し、やまんばがそれに乗る。椅子の前には景色（小さく描いた家などの絵）を別の係の子が出して、いかにも雲の上にいるように見せるというアイデアも、子どもたちから出たものだった。

「こうしてみたい」と誰かが思いを伝えると、「どうしようか」「こんな方法は？」と考えを出し合い、「それいいね」「やってみよう」という雰囲気がクラスに溢れ、互いに認め合う姿が見られた。これは今まで、子どもたちが話し合いを重ねながらいろいろなことを進めてきた成果だった。また、担任は、子どもから出てきた考えの実現が難しいと思っても、頭ごなしに否定するのではなく、何とか実現できるように子どもとともに考え、時々「こうしたらどうかな」と提案しながら、一緒に創るという姿勢で臨んでいた。

こうして世界に一つだけの劇遊びが完成した。保護者からもたくさんの拍手をもらい、子どもたちはやりきった満足感を味わうことができた。そして、やまんばへのそれぞれの思いも、卒園前にきちんと区切りをつけることができた。



やまんばは誰も見たことがありません。子どもたちの心の中にあるやまんばのイメージを共有することは、目に見えない分、難しいことです。しかし、見えないからこそ自由で、豊かでもあります。子どもたちのイメージを大事にし、劇遊びにしていくことで、みんなでやったという満足感を得ることができました。また、前年度から続いていたやまんばへの思い（存在への不安や怖さなど）も、仲良しになるという考えを受け入れて、それぞれに納得することができました。

子どもたちと遊びや活動を進めるためには、時間と見通しが必要です。日頃から、自分の保育が子どもたちの興味に沿っているか、保育者主導になっていないか、ねらいに沿っているか等を常に振り返り、精査しながら進めていくことが大切です。

3 小学校 1 年生スタートカリキュラムの例

(1) スタートカリキュラム実施に向けた準備 学校全体で組織的に取り組む

スタートカリキュラムを実施するためには、学校全体で協力体制を組み、組織的に取り組むことが大切です。スタートカリキュラムの特徴でもある合科的な指導の工夫や弾力的な時間割りの設定にあたっては、職員全体の協力が必要だからです。また、スタートカリキュラムは、幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続する役割を担っているため、その充実のためには、幼稚園・保育所・認定こども園との連携が欠かせません。外部と連携するには学校組織として対応することが重要です。そして、何より、スタートカリキュラムの意義や考え方、ねらいを全職員が共通理解し、1年生を全員で見守り育てる意識をもつことで、学校全体のカリキュラムマネジメントの充実にもつながります。

まず、前年度に「スタートカリキュラム作成委員会」などの校内組織を立ち上げて、意義やねらいを明らかにし、取組の具体を計画するとよいでしょう。「スタートカリキュラム作成委員会」のメンバーとしては、校長、教頭、主幹教諭や教務主任、研修主任、現1年担任、新1年担任、生活科主任、養護教諭、特別支援教育コーディネーター等が考えられますが、各学校の実情に応じて組織するとよいでしょう。校内組織を立ち上げることが難しい学校では、教務主任等が中心になって教育課程の原案を作り、職員会議等で共通理解を図っていく方法も考えられます。

幼稚園・保育所・認定こども園等との連携

入学児童が通っていた幼稚園・保育所・認定こども園等を実際に訪問し、保育の様子を参観したり、職員と情報交換をしたりすることは、生活のリズム、環境の構成や保育者の関わり方など、4月からの学校生活につながるポイントをたくさん知ることができ、スタートカリキュラムを作成する上で必要なことです。しかし、多くの園から入学児童を迎える小学校では、全ての園を訪問することは大変難しいことです。そこで、就学時健診の機会を活用したり、年度末に情報交換会を設けたりするなどの工夫をするとよいでしょう。県内には、定期的に連絡会や合同研修会を設けたり、夏休みなどに保育所等を訪問して園児の様子を参観したりして、年間を通して連携を充実させている小学校があります。それぞれの小学校の実情に合わせて、無理のない範囲で情報交換を図るとよいでしょう。

保護者へ説明する機会を設ける

保護者にスタートカリキュラムの意義やねらいを説明し、理解と協力を得ることは重要です。まず、入学説明会がよい機会となるでしょう。スタートカリキュラムが園での生活や学びのつながりを意識して実施されること、今の園での生活が小学校生活の基盤になっていることなどを理解することで、保護者も安心して入学を迎えること

ができます。入学してからは、学級だよりや懇談会などで子どもの様子を伝えていくとよいでしょう。

(2) スタートカリキュラムの目標

ここに示したスタートカリキュラムは生活科を中心とする合科的な単元として作成しました。学習指導要領解説では、「合科的な指導は教科のねらいをより効果的に実現するための指導方法の一つであり、単元又は1コマの時間の中で複数の教科の目標や内容を組み合わせて学習活動を展開するもの」と解説しています。合科的な指導をする場合でも、目標は教科ごとに設定する必要があります。ここでは、生活科の目標をスタートカリキュラム全体を総括する目標として位置付け、それを効果的に実現するために各教科の目標を設定しました。

(例) 《スタートカリキュラムの目標》

生活 (総括目標)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の施設の様子や一日の生活のサイクル、先生など学校生活を支えている人々や友達のよさがわかり、自分のことは自分でやろうとしながら、安心して学校生活をスタートさせる。 ・物や人に主体的に関わって「できた」「分かった」を積み重ねることにより、自分に自信をもち、楽しく学習したり生活したりする。
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の伝えたいことが相手に伝わるように、口形や発音、声の大きさ、明瞭さ、速さなどに気を付けて話したり、相手の話に関心をもって聞いたりする。 ・ひらがなを読んだり、書いたりする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> ・10までの数について、個数や順番を正しく数えたり、表したり、数の大小を理解したりする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽に合わせて、友達と楽しく歌ったり、体を動かしたりする。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きな物や好きなこと、自分をイメージするマーク、伝えたい出来事などを描いたり、作ったりする。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と仲良く、遊具で遊んだり、簡単なゲームで遊んだりする。
道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間の意義がわかり、進んで自分の思いを伝えたり、友達の意見を聞いたりしようとする。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの整頓や挨拶などの基本的な生活習慣を身に付ける。 ・学級生活をよりよくするためにどのように掃除をすればよいか話し合い、実践する。

(3) 児童の実態

学習指導要領解説では、「スタートカリキュラムにおける合科的な指導では、児童の発達の特徴や幼児期からの学びと育ちを踏まえ、児童の実態からカリキュラムを編成することが特徴であり、児童の成長の姿を診断・評価しながら、それらを生かして編成することが求められる。」と解説しています。スタートカリキュラムを作成する

にあたり、子どものこれまでの育ちを把握することは極めて重要であり、そのために、幼稚園、保育所、認定こども園等との連携が強く求められるのです。

さらに、今回の幼稚園教育要領や保育所保育指針等では、子どもの育ちを把握する視点として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が10項目で示されました。そこで、以下に、幼児期までの育ちの実際と、それを踏まえスタートカリキュラムでどのような成長をねらうかを項目ごとに例示しました。ただし、実際には、前年度のうちに、新担任が10項目全てにおいて詳細に子どもの姿を把握しておくことは、かなり難しいことです。子どもの育ちは、スタートカリキュラムを実施しながら把握したり、入学後に保育者と意見交換の機会をもったりしながら随時捉えていくことがよいでしょう。そして、そこでの診断・評価を生かしながら、カリキュラムを柔軟に改善していくことが必要でしょう。

(例) 《児童の実態とスタートカリキュラムにおける期待する姿》

項目	児童の実態と期待する姿
健康な体と心	衣服の着脱や食事、排泄など自分で行うことの必要性や、いつどのように行うかなどは分かっている。小学校の施設に慣れれば、自分で身支度等が行えると思われる。
自立心	幼児期に遊びを発展させていく中で、難しいことでも自分の力でやってみようと考えたり工夫したりしながら諦めずにやり遂げる経験をしている。学習の場面においてもこの経験が生きるように、創意工夫しながら粘り強く取り組めるような活動を展開させていきたい。
協同性	協同的な遊びの経験を積み重ねることで、共通の目的の実現に向けて、考えたことを相手に分かるように伝えたり、一緒に作業したりすることができている。学習過程において、ペア活動や小グループの活動などを取り入れながら、友達と関わって自分の考えを深め、課題を解決する達成感を味わわせたい。
道徳性・規範意識の芽生え	トラブルが起こった時、お互いの気持ちを伝え合い、解決に向けてアイデアを出し合い、行動する経験をしてきた。学校生活におけるトラブルについても、話し合いの場を設け、子ども同士で解決していくことを促すことで、相手の気持ちを考えたり、自分の振る舞いを振り返ったりなどしながら気持ちや行動を自律的に調整し、楽しく生活しようとする姿が期待できる。
社会生活との関わり	家族や年下の子、地域のお年寄りとの触れ合い活動などを通じて、相手の気持ちを考えて言葉を掛けたり、自分が役に立つことを考えて行動したりと、人との様々な関わり方を学んできている。学校生活においても、先生、上級生、保護者ボランティアなど様々な人と関わる場面を設定し、児童が相手の気持ちや状況を考えながら積極的に関わられるように支援していくことで、学校生活を楽しく過ごせることに気付かせたい。
思考力の芽生え	遊びの中で物の性質や仕組みなどに気付き、考えたり工夫したりして遊びを発展させたり、友達と話し合う中で、自分と異なる意見に触れ、自分の考えがよくなったことなどを体験してきた。児童が、興味関心をもって課題に取り組めるように 授業の導入の仕方を工夫したり、自分の考えたことを友達に伝え合う場を多く設定したりして、児童が主体的に問題を解決していこうとする姿を期待したい。
自然との関わり・生命	春の草花での色水づくり、夏の水遊び、秋の木の実をつかったお店屋さんごっこ、冬の氷づくりなど自然を対象にした遊びや栽培活動を積み重ねる中で、自然の素晴らしさや不思議さに気付いてきている。ここでは、それらの経験を踏まえ

尊重	て、より身の回りの自然に興味をもって関わり、詳しく観察したり、疑問に感じたことを本などで調べたりして探究心を高めていく姿を期待したい。
数量や図形、標識や文字などの関心・感覚	お店屋さんごっこやゲームを楽しむ中で、自分たちの目的を達成するための手段として、文字を書いて看板を作ったり、勝敗を判定するために物の数を数えたりして、文字や数に親しんできた。小学校では、文字や数を理解することが目的となる。文字や数に親しんだ経験はどの子にもあるが、文字や数の理解については個人差が予想される。個々の発達の実情に即して支援しながら、どの子も「分かった」「できた」という学びの実感を積み重ねられるように、教材を吟味したり、手だてを工夫したりしていく必要がある。
言葉による伝え合い	絵本などの読み聞かせや協同的な遊びなどで友達や先生と心を通わせ、相手の話を聞いて共感したり、自分の思いを相手に理解してもらえたりして、言葉による伝え合いの楽しさを経験してきた。これらの経験が生きるように、友達と考えを伝え合う場面を授業の中で多く設定し、自分の思いが相手に伝わるように、相手を意識した話し方をしたり、相手の思いを受け止め、認めたり、何とか理解しようとしたりする姿を期待したい。
豊かな感性と表現	劇遊びでは、音楽に合わせて歌ったり、簡単な楽器を演奏したり、体を動かしたり、役に合わせて台詞の言い方を工夫したり、小道具を作ったりして、友達と表現することを楽しんできた。これらの経験は、音楽や造形、身体などによる表現の基礎となる。幼児期に体験した歌や手遊び、造形遊びを参考に教材を吟味し、児童が楽しんで表現活動に取り組めるようにしたい。

(4) スタートカリキュラムの構想

三つの活動の設定と弾力的な時間割の構成

子どもが幼児期に親しんできた生活リズムや一日の過ごし方に配慮し、以下の三つの活動を設定しました。そして、活動時間も、小学校の1単位時間である45分を基本とするのではなく、子どもが集中する時間や意欲の高まりを大切にして、15分程度の短い時間を単位として時間割を構成したり、2時間続きの学習活動を位置付けたりしました。

《せいかつタイム》

小学校での生活が分かり、一人一人が、安心感をもち、自分の力で生活したり、新しい人間関係を築いたりできるようになることをねらいとした活動。これにより、自己肯定感が高まり、次の活動への意欲につながり、学校生活を楽しむことを期待している。学校の日課にとらわれず、柔軟に時間を設定することで、子どもに自分の力で活動する機会を十分与え、できたことを誉めていくようにする。

《なかよしタイム》

3つの活動の中で中心的な活動。生活科の内容を中心とする学習活動を行う。子どもの思いや願いをもとに学習活動を展開していくことで、主体的に物や人に関わって学習に取り組むことを期待している。

《まなびタイム》

教科等の内容を中心とした学習。一人一人に応じた手だてを講じることで、どの子ども「自分でわかった」「自分でできた」という学びの実感を積み重ねることができるようにする。子どもの発達の実態に応じ、最初は、15分程度のモジュールで学習活動を計画し、徐々に45分の授業につなげていく。

三つの活動は、各教科等による時間割への移行を見据えて、最初は、《せいかつタイム》《なかよしタイム》が一日の活動の中心となるように設定し、少しずつ《まなびタイム》の時間を増やしていくようにしました。

また、スタートカリキュラムに要する授業時数は、関連する教科の授業時数から充当し、1週間の授業時数を下記のとおり配当しました。実際に、各学校でスタートカリキュラムを実施する場合は学校の実情を考慮して授業時数を配当してください。

スタートカリキュラムにおける授業時数の配当（1週間単位）

国語・・・9時間 算数・・・4時間 生活・・・3時間 音楽・・・2時間
図画工作・2時間 体育・・・3時間 道徳・・・1時間 特別活動・1時間

1週間単位で構想する

1週間を一つの小单元として考え、週のねらいや時間割を設定しました。また、「自分のことは自分でする」から「クラスのために自分の役割を果たす」へ、「身近な友達や先生との関わり」から「学級・学校との関わり」へ、徐々にステップアップしていくように学習活動を配列しました。また、(5)週の指導計画例では、第1週から第4週までの週の指導計画例を掲載していますが、各学校においては、学校や児童の実態に応じて必要な期間の指導計画を作成してください。

《スタートカリキュラムにおける三つの活動のイメージ》

第1週	第2週	第3週	第4週
せいかつタイム			
なかよしタイム			
まなびタイム			

【第1週】自分のことは自分でやり、新しい友達と仲良くしよう

- ・身支度や給食の配膳、身の回りの整理整頓など、進んでしようとする。
- ・自己紹介をしたり、新しい友達と仲良く遊んだりしようとする。
- ・口の形に気を付けて、はっきり話したり、書き順や形に気を付けて平仮名を書いたりする。

	児童の思い・願い	主な学習活動	支援・留意点等
「自分のことは自分で」	<p>「ランドセルはどこにおくのかな」</p> <p>「どきどき。友達できるかな」</p> <p>「トイレに行きたいかな」</p> <p>「調子が悪い時はどうしたらいいかな」</p> <p>「火事や地震の時はどうすればいいかな」</p> <p>「おなかがすいたな」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のロッカーを確認し、置く位置や向きを考える。 ・教科書、ノート、文房具など、机の中の整理の仕方を考える。 ・提出物の出し方、プリントなどのもらい方を知る。 ・手遊び歌や仲間集め遊び、読み聞かせ等を楽しむ。 ・トイレの場所や使い方を知る。行きたいときの伝え方、使う時に気をつけることなどを考える。 ・保健室や職員室の場所や使い方を知る。どのように声を掛けて入室したり自分のことを伝えたりすればよいか考える。 ・並び方を知る。並ぶ時気を付けることを考える。 ・避難の仕方を知る。避難する時、気をつけることを考える。 ・給食の準備の仕方や食べ方、片づけ方を知る。楽しく食べるにはどうしたらいいか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校における生活習慣の定着に向けて、教師が一方的に教え込むのではなく、児童が教師と一緒に行動の意味を考え、適切な行動の仕方を理解することができるようにする。 ・一日の学校生活の流れ、ロッカーの使い方、机の中の整理の仕方、給食の配膳や片づけの仕方など絵カード等で提示し、掲示物を見て、自分で行動できるようにする。 ・できたことを誉め、クラスに広めていくことで、自尊感情を高めたり、次への意欲付けを図ったりする。 ・事前に、養護教諭や管理職、事務員等に協力を依頼し、実際に保健室や職員室に出入りする体験をさせる。
「友達と仲良くしよう」	<p>「新しい友達をつくりたいな」</p> <p>「友達と遊びたいな」</p> <p>「上級生や先生たちの名前を知りたいな。わたしのことも知ってもらいたいな」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介の仕方を考え、クラスや学年の友達と互いに自己紹介し合う。 ・校庭で、遊具遊びや鬼ごっこなどをして遊ぶ。 ・自分のことを知ってもらうために名刺（自己紹介カード）をつくる。 ・先生方や上級生に名刺を配る時の声のかけ方を考える。 ・先生方や上級生に名刺を配り、自己紹介をする。 ・上級生と一緒に遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介をし合う時は、仲間集めゲームなどを取り入れて、いろいろなペアやグループを作り、たくさんの人と紹介し合えるようにする。 ・振り返りの時間を設け、児童の思いから次の活動が展開されるようにする。 ・事前に他学年の担任に協力依頼をし、一年生が上級生と関わり合える時間を設定してもらう。
「まなびの時間」	<p>「勉強がはじまるよ。わくわく。どきどき」</p> <p>「教科書を見たいな」</p> <p>「ひらがなを書いてみたいな」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の絵をみて、どんな挨拶をすればいいか考え、はっきりと挨拶する。(国) ・口の形や声の大きさを意識しながら50音を発音する。(国) ・はっきりとした発音で、自分の名前や友達の名前、好きな物などを話す。(国) ・一筆や二筆の平仮名の書き順を知り、形に気を付けて書く。(国) 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態を考慮し、一つの学習活動は15分程度とする。 ・教科学習に対する意欲付けを図るため、どの子も「できた」実感をもつように、課題の提示の仕方や支援や評価の仕方を工夫する。

【第2週】学校の先生や上級生のことを知ろう

- ・朝運動に興味をもち、進んで体を動かす。朝の会や帰りの会の意義が分かり、どんな活動をしたらよいか考える。
- ・学校を探検し、いろいろな部屋があったり、たくさんの先生がいたりすることが分かる。
- ・語のまとまりに気をつけて音読したり、絵を見て、気付いたことを文にして話したりする。10までの数について数えたり、書いたりする。

	児童の思い・願い	主な学習活動	支援・留意点等
せいかつタイム 「1日の生活の見通しや振り返り」	<p>「上級生みたいに、朝の運動をしてみたいな」</p> <p>「好きな手遊び歌や絵本を新しい友達に教えたいな」</p> <p>「明日も学校に来るのが楽しみだな」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体操着への着替え方や服のたたみ方を知る。 ・並び方が分かり、どこでも素早く並ぶ。 ・運動場の周りにある遊具等を使って、自分なりのトレーニングを考える。 ・一日の予定を確認し、今日頑張りたいことを伝え合う。 ・お気に入りの手遊びや絵本などを紹介し合い、みんなでやってみる。 ・休み時間と業間休み、昼休みの過ごし方の違いを知る。 ・一日を振り返って頑張ったこと、明日頑張りたいことなどを発表し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・上級生が取り組んでいる朝運動を見学し、「自分たちもやってみよう」という気持ちを喚起させる。 ・自分なりのトレーニングを考えさせることで、体を動かすことが苦手な子ども主体的に運動できるようにする。 ・他学年の担任等に協力依頼をし、運動場が空いている時間を設定する。 ・一日の見通しや振り返りの時間を設け、学校生活をよりよくしていこうとする意欲付けを図る。
なかよしタイム 「学校を探検しよう」	<p>「名刺を渡しにお兄さんたちの部屋に行ったけど、学校にある全部の部屋に行ってみよう」</p> <p>「今まで見たことないものがたくさんあったな。何をやる部屋かな」</p> <p>「たくさんの先生の名前を覚えてもらったけど、どんな仕事をしているのだろう」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎や校庭を探検する時、気を付けることについて考える。 ・教師の引率のもと、校舎や校庭を歩き、見つけたことや気付いたことを発表し合う。 ・友達と一緒に、興味をもった場所に探検に行き、見つけたことや気付いたこと、疑問に思ったこと、もっと知りたいことを発表し合う。 ・先生の仕事や学校にある部屋について知りたいことを考えインタビューする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校全体に協力依頼をし、興味をもった部屋に児童同士で探検ができたり、教職員にインタビューができたりするようにする。 ・デジタルカメラやプロジェクター等 ICT 機器を活用し、探検して見たこと、気付いたことへの理解を深める。
まなびタイム 「教科書を開いてみよう」	<p>「字が書けるようになったよ。次は、教科書を読んでみたいな」</p> <p>「数字も書けるようになりたいな」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に出てくる詩を語のまとまりに気をつけて音読したり暗唱したりする。(国) ・絵を見て気付いたことを文にして話す。(国) ・三筆、四筆の平仮名の書き順を知り、形に気を付けて書く。(国) ・絵を見て、その数だけおはじきを置き、数を数える。(算) ・1～5までの数字と書き方が分かる。(算) 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書を使う際、「無償給付」等に触れながら大切に扱うように話す。 ・この週から、45分単位の授業を設定していくが、一つの学習活動は15分程度とし、活動にめりはりをもたせ、児童の集中力が続くように配慮する。

【第3週】クラスのために役立つことを考えよう

- ・学級生活をよりよくするためにどのように掃除をすればよいか話し合い、自分の仕事に一生懸命取り組もうとする。
- ・学校探検や教師へのインタビューで分かったこと気付いたことを分かりやすく友達に紹介するため、絵やポスター、ペープサート等自分なりの方法を考える。
- ・絵や50音表から、言葉を集めたり、主語述語の文を作ったりする。6～10までの数と数字を理解する。友達と一緒に歌ったり、体を動かしたりして音楽の楽しさを感じ取る。友達と一緒に「体ほぐしの運動」を行い、体を動かすと気持ちがよいことや友達と一緒に運動すると楽しいことに気付く。

	児童の思い・願い	主な学習活動	留意点等
せい か つ タ イ ム 「掃除の日」	「自分たちが使う教室や廊下をきれいにしたいな」	<ul style="list-style-type: none"> ・どこをどのように掃除したら、気持ちよく生活できるか考える。 ・掃除場所の分担をきめる。 ・掃除の仕方について考え、実際にやってみる中で、始まりと終わりの挨拶、用具の置き場所や片付けの仕方等を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで掃除場所や掃除の仕方を考えることによって、学校生活をよりよくしていこうとする意欲付けを図る。その際、教師は、学年に割り当てられている掃除場所を考慮しながら、子どもの話し合いをコーディネートする。
な か よ し タ イ ム 「学校探検」	「学校にはたくさんの部屋があって、先生たちもいろいろな仕事をしているな。見てきたこと、分かったことを友達に伝えたいな」	<ul style="list-style-type: none"> ・学校探検やインタビュー活動を通して分かったことの中から、友達に紹介したい事柄を選ぶ。 ・分かりやすく紹介するためにはどのような方法があるか考える。 ・紹介したい事柄を絵や写真文字ペープサートなど自分なりの方法で表現する。 ・紹介するための話原稿を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童は、幼児期にも人前で様々なことについて発表したり紹介したりする経験をしてきている。その経験を話し合わせることで、一人一人が自分なりに紹介の方法を考えられるようにする。
ま な び タ イ ム 「友達の勉強」	<p>「文字や数字だけではなく、他の勉強もしてみたいな」</p> <p>「できたこと、分かったことが増えていくよ。勉強は楽しいな」</p> <p>「友達と一緒に勉強するのは楽しいな」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・50音表を見て、行や段ごとに読んでみる。ひらがなを一つ選んで、その字からはじまる言葉を集める。集めた言葉を書き順や形に気をつけて書いてみる。(国) ・絵をみて、「何がどうする」という文をつくる。作った文を句読点を用いながら書いてみる。(国) ・1～5までの数字と書き方が分かる。(算) ・身の回りにある10程度の物の数を数えてみる。(算) ・カードに書かれた数字の数だけおはじきやブロックを置く。(算) ・音楽に合わせて、手拍子をしたり、手足等を動かしたりしながら、みんなで楽しく歌う。(音) ・手をつないで回ったり、背中や足の裏などを合わせたりして友達と一緒に体を動かすことを楽しむ。(体) 	<ul style="list-style-type: none"> ・45分単位の授業の設定を増やしていくが、一つの学習活動は15分程度とし、活動にメリハリをもたせ、児童の集中力が続くように配慮する。 ・書く活動や、半具体物を操作する活動では個人差が見られる。一人一人に合った作業量を用意したり、早く終わった子への指示を明確にしたりするなどして、児童が最後まで活動に意欲的に取り組めるように配慮する。 ・この週から、国語や算数以外の教科も設定していく。 ・一人で取り組む活動、ペアや小グループで取り組む活動など、学習形態を工夫する。

【第4週】学校の生活リズムに慣れ、進んで活動しよう

- ・学校の生活リズムが分かり、自分から進んで、身支度を整えたり、友達と協力して給食の配膳や掃除に取り組んだりするとともに、時間を意識して行動しようとする。
- ・学校の施設や先生の仕事等について紹介し合う中で、学校の様子が分かり、自分たちの学校生活はいろいろな人に支えられていることに気付く。
- ・各教科等の授業において、課題に対し、進んで取り組んだり、友達と関わりながら自分の考え等をよりよくしたりしながら、「分かった」「できた」という学びの実感を積み重ねる。

	児童の思い・願い	主な学習活動	留意点等
せい か つ い ム 「学校の生活リズムに慣れよう」	「学校の生活に慣れてきたよ。次にやることは何か分かっているよ」 「時計を見て、遅れないように行動しよう」	・朝活動、朝の会、業間休み、給食、昼休み、清掃活動、帰りの会など、学校の日課に沿って活動する。	・学校全体で取り組む活動に全て参加する。 ・学校の日課に沿って行動できるように、時間を意識させる。
なか よ し た い ム 「探検したいよ」	「学校や先生のことを紹介するのでわくわくするよ。友達がどんなことを紹介するのか聞くのも楽しみだな」 「学校にいる人たちはみんな僕たちのために働いているね。ありがとう」 「次は、学校の外も探検してみたいな」	・学校探検やインタビュー活動を通して分かったことを自分なりに工夫した方法で友達に紹介する。 ・自分の紹介と友達の紹介を比べて聞き、新たな発見をしながら、学校の様子やそこで働いている人々のことをより深く知る。 ・自分たちの生活が多くの人に支えられていることに気付く。 ・これまでやってきたこと振り返り、友達のよさを認めたり、自分に自信をもったりするとともに、次に取り組みたいことを考える。	・可能であれば協力してくれた教師や上級生に声を掛け、観客になってもらうことで意欲化を図る。小さい声で聞き取りづらい子や人前で話すことに抵抗がある子には、教師と一緒に話す等、個に応じた配慮をする。 ・振り返りの活動では、児童が自分の成長を実感できるように教師が率先して誉めていく。 ・「なかよしタイム」は今後「生活科」という名前で学習することを知らせる。
ま な び た い ム 「思ったよ」	「できたこと、分かったことが増えていくよ。勉強は楽しいな」 「友達と一緒に勉強するのは楽しいな」	・絵や50音表から、言葉を集めたり、主語述語の文や質問文・応答文をつくったりする。(国) ・10までの数について、順序や大小を理解したり、数字と具体物を一致させたりする。(算) ・身の回りにある文房具や用具を使って、色の配色や形等を意識して並べる遊びを楽しむ。(図) ・3拍、4拍の言葉を集め、手拍子をしたり足踏みをしたりしながら、言葉をつなげる遊びを楽しむことで拍の流れを感じ取る。(音) ・用具等を使いながら、友達と一緒に「体ほぐしの運動」を行い、体を動かすと気持ちがよいことや友達と一緒に運動すると楽しいことに気付く。(体) ・「道徳」の時間にはどんな学習をするのかを知る。(道)	・「まなびタイム」は今後、各教科等の名称で呼ぶことを知らせる。 ・45分の授業を児童の発達の実態や課題に応じて柔軟に展開できるように工夫する。 ・一人一人の実態をよく把握し、個に応じた支援を工夫することで、どの子も「分かった」「できた」等、学びの実感を積み重ねることができるようになる。

(5) 週の指導計画例

【第1週】

■せいかつタイム

■なかよしタイム

■まなびタイム

時間	学校の日課	月	火	水	木	金
8:00	朝活動	朝のしたくをしよう (ランドセル、靴、文房具のしまい方、提出物の出し方)	トイレの使い方を考えよう (トイレや手洗い場の使い方)	困った時はどうする? (保健室への出入りの仕方、保健の先生への挨拶の仕方、尋ね方)	困った時はどうする? (職員室への出入りの仕方、職員室の先生への挨拶の仕方・尋ね方)	並んで歩こう (整列の仕方、運動場への避難の仕方)
8:15	朝の会					
8:30		手遊び歌や仲間集め遊び、読み聞かせをして、心をほぐそう				
8:45	1時間目	あいさつしよう(国)	はっきり話そう(国)		お名前 教えて(国)	好きなものなあに(国)
9:00		字をかいてみよう(国)				
9:15	休み時間	休み時間	休み時間	休み時間	休み時間	休み時間
9:25	2時間目	自己紹介の仕方を考えよう	隣のクラスの友達に自己紹介をしよう	もっとたくさんの人と知り合いになるにはどうすればいいのかな?	もっとたくさん、もっとよい名刺をつくろう(名刺作り)	上級生や先生方に名刺を渡しに行こう
9:40		友達に自己紹介しよう	隣のクラスの友達とも一緒に遊ぼう	名刺を作ろう(名刺作り)	片づけをしよう	上級生や先生方と一緒に遊んでみよう
9:55						
10:05	業間休み	校庭で友達と一緒に遊んでみよう			誰に渡そうか? どうやって渡せばいいかな? (他教室への出入りの仕方、声の掛け方)	振り返ろう
10:30	3時間目	振り返ろう	振り返ろう	片づけをしよう	振り返ろう	
10:45						
11:00						
11:15	休み時間	休み時間	休み時間	休み時間	休み時間	休み時間
11:25	4時間目	みんなで協力して、給食の準備をしよう(手洗い、身支度、配膳の仕方)				
11:40		マナーを守り、残さず、楽しく食べよう				
11:55		みんなで協力して、給食の片付けをしよう(食器等の片付け方、配膳台などの拭き方、歯磨き手洗いの仕方)				
12:10	給食	帰りのしたくをしよう(身支度の仕方、プリントの配り方もらい方) 車に気をつけて帰ろう(下校の仕方)				
12:50	昼休み					
13:20	掃除					
13:40	5時間目					
13:55						
14:10						
14:25	帰りの会					
時数カウント		国語:9 生活科:3 音楽:1 図工:1 体育:3 特別活動:3 打切り:5 合計25				

【第2週】

■せいかつタイム

■なかよしタイム

■まなびタイム

時間	学校の日課	月	火	水	木	金
8:00	朝活動	体操服に着替えてみよう(体操服への着替え方、服のたたみ方)				
8:15	朝の会	運動場に出て、自分に合うトレーニングをしてみよう(トラックを走る、遊具を使う、汗の始末、うがい手洗いの仕方)				
8:30	1時間目	手遊び歌や仲間集め遊び、読み聞かせをして、心をほぐそう				
		一日の予定を確認し、今日がんばりたいことを話してみよう				
8:45		読んでみよう(国)			絵を見て話そう(国)	
9:00		字を書いてみよう(国)				
9:15	休み時間	休み時間	休み時間	休み時間	休み時間	休み時間
9:25	2時間目	お話を聞こう(国)	算数ボックスをのぞいてみよう(算)	1～5までの数を数えてみよう(算)		
9:40		お話の内容を話そう(国)	絵の数だけ、おはじきをおこう(算)	1～5までの数字を書こう(算)		
9:55		休み時間の過ごし方を考えよう(特)	おはじきを数えよう(算)	数字カードを見て、おはじきを並べよう(算)		
10:05	業間休み	業間休み	業間休み	業間休み	業間休み	業間休み
10:30	3時間目	学校にはどんな部屋があるか考えよう	自分たちで学校探検をする時の計画を立てよう	疑問に思ったこと、もっと知りたいことを解決するにはどうしたらよいか考えよう	疑問に思ったこと、もっと知りたいことを解決するために、もう一度、学校探検をしよう	体育館やプール、校庭を探検する計画を立てよう
10:45		先生と一緒に学校探検をしよう	探検する時の決まりについて話し合おう	もっと詳しく見てくること、先生方に聞いてくることを考えよう	先生方にインタビューしてみよう	体育館やプール、校庭を友達と一緒に探検しよう
11:00			自分たちで考えた決まりを守って、友達と学校探検をしてみよう	振り返ろう		
11:15	休み時間					
11:25	4時間目	振り返ろう	振り返ろう	振り返ろう	振り返ろう	振り返ろう
11:40						
11:55						
12:10	給食	給食	給食	給食	給食	給食
12:50	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み
13:20	掃除	今日がんばったこと、明日がんばりたいことを話してみよう				
13:40	5時間目	帰りのしたくをして、車に気をつけて帰ろう				
13:55						
14:10						
14:25		帰りの会				
	時数カウント	国語:9 算数:4 生活科:4 体育:2 道徳:1 打切り:5 合計25				

【第3週】

■せいかつタイム

■なかよしタイム

■まなびタイム

時間	学校の日課	月	火	水	木	金	
8:00	朝活動	朝活動	朝活動	朝活動	朝活動	朝活動	
8:15	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会	
8:30	1時間目	50音表をみて行や段ごとに読んでみよう(国)			絵をみて文を作ろう(国)		
8:45		言葉集めをしよう(国)			作った文を読んでみよう(国)		
9:00		集めた言葉を書いてみよう(国)			作った文を句読点に気をつけて書いてみよう(国)		
9:15	休み時間	休み時間	休み時間	休み時間	休み時間	休み時間	
9:25	2時間目	6～10までの数を数えてみよう(算)	並びっこ競争をしよう(体)	6～10までの数を数えてみよう(算)	手遊び歌を楽しもう(音)	6～10までの数を数えてみよう(算)	
9:40		6～10までの数字を書こう(算)	遊具を使って運動しよう(体)	6～10までの数字を書こう(算)	体を動かしながら歌おう(音)	6～10までの数字を書こう(算)	
9:55		数字カードを見て、おはじきを並べよう(算)	二人組、三人組になって運動しよう(体)	数字カードを見て、おはじきを並べよう(算)	声を合わせて歌おう(音)	数字カードを見て、おはじきを並べよう(算)	
10:05	業間休み	業間休み	業間休み	業間休み	業間休み	業間休み	
10:30	3時間目	学校探検やインタビュー活動を通して分かったこと絵や文にしてみよう	どんな方法で紹介したいか考えよう	分かりやすく紹介するために、紙芝居、ペープサート、模型など自分なりの紹介するものを作ろう	分かりやすく紹介するために、紙芝居、ペープサート、模型など自分なりの紹介するものを作ろう	学校探検発表会の準備をしよう	
10:45			絵や文にしたことを発表しよう	分かりやすく紹介するために、紙芝居、ペープサート、模型など自分なりの紹介するものを作ろう	紹介する部屋のことや、先生のことをもっとくわしく調べてこよう		紹介する部屋のことや、先生のことをもっとくわしく調べてこよう
11:00							
11:15	休み時間						
11:25	4時間目	もっと詳しく友達に紹介したいことを考えよう	振り返ろう	振り返ろう	振り返ろう	振り返ろう	
11:40							
11:55							
12:10	給食	給食	給食	給食	給食	給食	
12:50	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	
13:20	掃除	上級生の掃除の仕方を見学しよう 気持ちよく生活するために、掃除をするわけを話し合おう	掃除をする準備をしよう(身支度、用具の使い方、始めの挨拶)				
13:40	正しい用具の使い方を知り、友達と協力して、掃除をしてみよう						
13:55	片づけをしよう(終わりの挨拶、用具のしまい方、うがい手洗い)						
14:10	帰りの会	帰りの会	帰りの会	帰りの会	帰りの会	帰りの会	
14:25	帰りの会						
時数カウント	国語:10 算数:3 生活科:5 図工:2 音楽:1 体育:1 道徳:1 特別活動:2 打切り:0 合計:25						

【第4週】

■せいかつタイム

■なかよしタイム

■まなびタイム

時間	学校の日課	月	火	水	木	金
8:00	朝活動	朝活動	朝活動	朝活動	朝活動	朝活動
8:15	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会	朝の会
8:30	1時間目	つやよ のつく言葉を集めよう(国)				国語
8:45		質問する文を作ろう(国)	質問する文を作ろう(国)	学校探検発表会で質問したいことを文にしよう(国)	きのうのことを話そう(国)	物語を読んでみよう
9:00						
9:15	休み時間	休み時間	休み時間	休み時間	休み時間	休み時間
9:25	2時間目	数字カードで遊そぼう(算)		学校探検発表会をしよう	算数	算数
9:40		どちらが多いかな(算)	どちらが多いかな(算)		何番目	何番目
9:55						
10:05	業間休み	業間休み	業間休み	発表会で分かったことを話そう	業間休み	業間休み
10:30	3時間目	学校探検発表会の準備をしよう	学校探検発表会の準備をしよう	友達と協力してよかったこと、むずかかったことを話そう	図工	音楽
10:45		お世話になった人を招待する計画を立てよう	お世話になった人を招待する計画を立てよう		並べて遊ぼう	歌や音楽に合わせて手拍子をしよう
11:00						
11:15	休み時間			休み時間	休み時間	休み時間
11:25	4時間目	振り返ろう	振り返ろう	体育	図工	書き方
11:40				遊具を使って運動しよう	並べて遊ぼう	正しい姿勢で書こう
11:55						
12:10	給食	給食	給食	給食	給食	給食
12:50	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み
13:20	掃除	掃除	掃除	掃除	掃除	掃除
13:40	5時間目	体育	体育	音楽	生活	学級活動
13:55		遊具を使って運動しよう	遊具を使って運動しよう	歌や音楽に合わせて手拍子をたたこう	学校探検を振り返ろう	4月を振り返ろう
14:10						5月のめあてを立てよう
14:25	帰りの会	帰りの会	帰りの会	帰りの会	帰りの会	帰りの会
時数カウント		国語:9 算数:5 生活科:3 図工:2 音楽:2 体育:2 道徳:1 特別活動:1 打切り:0 合計:25				